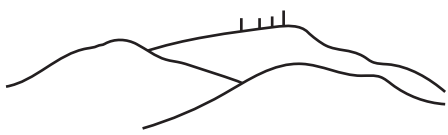


Youth Manna

2021/6/7 - 6/13



マルコ 1:35

さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。

2021/6/7(月)

Ⅰ 歴代誌 28 章

ダビデは神様から神殿建設を禁じられていましたが(3)、その大きな熱意から、自分ではなくソロモンが工事を始められるように建築の用意をしました。ここでダビデはソロモンに、大切なのは建物ではなく、人々が神様に忠実に歩むという点であることを伝えます(9)。たとえどれほど立派な神殿を立てたとしても、心が神様から離れてしまっただけは無意味だからです。

私たちは、日々何のために生きているだろう？ 私たちの心をご存知の神様は、私たちをどのように見ておられるだろうか。勉強、友達関係、恋愛や結婚、飲むのも食べるのも、すべては神様の栄光のためにあると思えているだろうか？ 今年度のビジョン”Remain”をもう一度受け取って、今日一日をイエス様にとどまって歩もう！！

2021/6/8(火)

Ⅰ 歴代誌 29:1-19

神殿の工事のために、ダビデは自分の財産から多くを献げ、ダビデの呼びかけに応じて人々も喜んで献げました。そのことの故に大きな喜びが民全体の内にあったことが記されています(1-9)。

ダビデは全会衆の前で神様をほめたたえました。その中で、自分たちが献げることができたのも、まず第一に神様が与えてくださったからであることを告白しています(14-16)。

君は「すべてはあなたから出た」とするダビデの告白や態度をどう思うかな？ ダビデの心の姿勢から学べることは何だろう？ 自分がどのように神様に献げているかを思い返し、これからどのようにすべきか考えて実行していこう！

2021/6/9(水)

Ⅰ 歴代誌 29:20-30

ダビデはソロモンに王位を継承し、最後の責務を果たした。聖書にある王位の継承は混乱の種になることが多いが、歴代誌はダビデの姿を書き留め、神のもとにある継承の必要性を示している。民は神を礼拝し、主の前で宴会を行った。神の祝福を喜び楽しむときであり、皆で喜びを分かち合うことは大いに意義があった。

王位を継承したダビデは平安のうちに生涯を閉じた。激動の生涯であったが、歴代誌はその苦勞よりもダビデによって整えられた祝福について語り、それらを後の民がどのように受け継いでいくのかに注目していく。

いつも神様の祝福を喜び、感謝しよう！

2021/6/10(木)

使徒 8:1-13

ステパノが殉教した日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が行われ、使徒たち以外の者はユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。サウロ(のちのパウロ)はステパノの殺害に賛成し、迫害に加わり、家から家と押し入り教会を荒らし、人々を牢に入れた。

しかし、散らされた人たちが各地でキリストを宣べ伝えたことによって、福音はかえって広まるという結果になった。これは私たちの想像を超えて、神様がなされた働きである。

神様の計画は私たちには計り知れない。今、君が抱えている問題や困難はどんなものがあるだろう？ その中で神様は君に何を語られているだろう？ 心を静めて神様の声に耳を傾けよう！

カメハメハ・デー 2021/6/11(金)

使徒 8:14-25

▶バプテスマを受けたが聖霊は下っていなかった魔術師シモンは、ペテロとヨハネを通して人々に聖霊が与えられたのを見た。元々自分のことを偉大な者だと話していたシモンは羨ましくなったのだろう。お金で神の賜物を手に入れようとした。

▶英語では simony という言葉がある。意味は『教会での立場や権威を金で買おうとする行為』。シモンが語源だ。新しい言葉ができるほど彼の行為は教会から嫌われた。

▶シモンの考えは良くなかった。でも私たちの心の中にも、周りの人からすごいと思われたい、というシモンと似た思いはないだろうか？ 肉の思いに打ち勝つには御霊の働きが必要だ。祈ろう：あなたの愛から私を引き離すものはありません。私を御霊で満たしてください。

2021/6/12(土)

使徒 8:26-40

今日の箇所はピリポが主の使いのことばに従ったところから始まったね。その言葉どおりに行動したことから、エチオピアの偉い人への宣教、救いへとつながった。そこには神様が導いてくださった時と、神様が開いてくださったエチオピア高官の神様を求める心、それに従ったピリポの誠実さがあるね。

みんながイエス様と出会って救われた時も、神様が用意してくださったものだよ。ぜひ友だちや家族と分かち合おう！そして、今度は私たちがまだ信じてない友だちや家族の救いのために神様の時を求めよう！

神様が導いてくださる時を敏感にキャッチして証をしていこう！

2021/6/13(日)

使徒 9:1-19a

熱心なユダヤ教徒であったサウロ(後のパウロ)は教会を迫害し、イエス様の弟子たちを牢に捕らえようとしていました。しかし、そんな時サウロに天からの光と共にイエス様が現れ、目が見えなくなる経験をしました。

盲目になり、徹底的に弱くされる中で、自分自身の行いを悔い改める機会を与えられ、サウロの心の目は開かれました。心の覆いが取り除かれ、目が見えるようになったサウロは、生涯をかけてイエス様に仕える弟子としての歩みを始めました。

私たちも、サウロのように心に覆いがかけられ、イエス様を見ることができていないことはないでしょうか。サウロの心の覆いを取り除いた主が私たちのうちにもはたらいてくださいます！ エペソ人への手紙 1:17-19 の、パウロの祈りに心を合わせ、心の目がはっきりと開かれるように祈ろう！